

## 創立 40 周年記念展示会・山友達の集い実施報告

藤井、高橋、嘉本、白築、宮本、平井、西村、利弘、青戸、野津、杉原、佐藤、角  
30 周年以降の 10 年間は海外遠征を始め、東北の山や日本アルプスの遠征が毎年行われ、活動が活発な時期だった。またハイキングに加え城跡や史跡を旅する「山旅」の楽しみ方が新たに加わった。40 周年の記念事業としてこれらの楽しさを伝える展示はできないか考えた。

一方で 2020 年夏に行われた大山展で、多くの会員が写真等の作品を出展できることがわかった。ホームページに掲載した定例山行や遠征登山の積み上げが豊富にある。個人投稿の日本アルプスや海外の山もたくさんあり、写真の素材は豊かにあると思った。

これにミニ登山教室を同時開催すればさらに関心も高まると考えた。スマホ GPS の使い方が注目されており、冬を迎えた雪山装備の使い方も興味を持たれると考えた。

MHC の定例山行は近郊のハイキング、大山や日本アルプスの本格登山から、最近では城跡・史跡の山旅まで多岐にわたる。そこで統一テーマを「登山・ハイキング・山旅の楽しみ方」とした。

クラブの歴史で役員として貢献いただいた O B の方を招待し、山の楽しさや思い出を語る場となると恩返しにもなる。一般者への呼びかけは会員からの紹介を中心に、新聞広告、ホームページやフェイスブックの活用も行った。

本番に備えて実行委員の 13 名が役割を分担し万全の体制で臨んだ。高橋リーダー中心の応募活動で写真・絵画等 50 点が集まった。広報活動、O B 招待、目録の作成などを委員で分担し、事前準備を綿密に行った。設営作業は時間



との戦いだったが無事に完了し、予定の 12 時にオープンできた。

展示パネルの前で来場者は登った山の思い出を語り合いながら楽しそうだった。OBの方は懐かしい写真を眺めながら同窓会のように喜んでおられた。まさに山友達の集いだった。

中央テーブルの展示資料が好評だった。アルバムは 40 周年活動記録写真、山の花・蝶・鳥の写真、海外や日本アルプスの写真集などが人気だった。クラブの歴史を語る会報・記念誌・出雲の山々などの展示も注目された。閲覧に時間をかけてなかなか帰らない人も多かった。

ミニ登山教室ではマンツーマン形式で質問が飛び交い白熱した。これを機会に入会希望者もあった。ミニ登山教室受講者数は 19 名だった。このうち何人かは春に入会を希望すると思われる。OB招待者から 4 名の入会の推薦があった。入会希望者の対応は、会長・副会長にフォローして頂きたい。

来場者は次の通りだった。会員：62

会員OB：27 県連：1 山岳写真集団風：5 あげぼの会：4 くにびき学園：16 フェイスブック招待者：7 五人展の方：30 一般者：134 署名なし：31 来場者総数：317。317 人は「風」以外では希な来場者数であり、200 人を超えれば盛会と言える。

OBの来場者は予定の 21 名以上だった。くにびき学園は卒業生会員の広報によるものである。フェイスブック招待者は藤井個人の広報だったが、遠く津山や倉吉から来られた方もあった。SNS の活用が今後の広報には重要になると考えられる。一般者の内訳は、会員がハガキで案内した方、有料の新聞広告、マールテレビ放映、ホームページなどであった。県連の各団体には活動の見本として見て欲しかったが、1 名の来場のみで反応がなかった。

40 周年記念展示会は成功裏に終わった。クラブとしては 10 年後の 50 周年を目指すことになる。古い年代は 40 周年を持って役目を終わり、50 周年は次の世代の会員に託すことになる。クラブとしてスムーズな世代交代を願っている。 (藤井 記)

